

## 令和3年度 さいたま市立慈恩寺中学校 学校運営協議会による評価書

さいたま市立慈恩寺中学校  
学校運営協議会  
会長氏名 山角真司

### 学校運営協議会による評価（協議会の委員の意見等）

- ・コロナ禍の中、オンライン授業など教職員の努力は感じられるが、授業参観や学校公開がなくなり保護者が実際に学校を見に行く機会や教職員と交流する機会が減ってしまった。保護者は学校での子どもの様子を見たいのは、当然のことであり、オンラインも含めて学校に足を運びやすくなる仕組みができるとうい。
- ・生徒、保護者、教職員ともに全体的に学校評価の肯定的評価が高いので、課題となる部分を改善していくことも大切であるが、慈恩寺中学校のすばらしい部分をさらに伸ばしていく指導方法がよいと感じる。
- ・一人一台端末や教室のホワイトボードやプロジェクターが設置されているが、具体的な利用例とICT活用の苦手な生徒への対応について知りたい。
- ・煌きチャレンジスクールの取組で基礎学力の向上が目標であり、生徒の感想から努力の成果が見られ素晴らしい。課題点としては、参加者の学年に偏りがあることと、5教科それぞれの学習アドバイザーが網羅されるとよい。
- ・ICT活用の指導も大切であるが、それだけでは不十分であり、実際に書く作業も含めて学習に取り組んでいくことが大切であると思う。
- ・大人も交通ルールやマナーを守ることが大切であると感じる。生徒は学校のルールだから、先生に叱られるから守ってはいるけれど、それ以外の場面や登下校以外の時間においても、主体的にルールやマナーを守って交通安全に対する意識が高くなると良い。
- ・令和5年度からの部活動改革について、岩槻区には総合型地域スポーツクラブは、現在、一つしかなく、具体的にどのように進めて行くのかが課題である。

### 学校運営協議会による評価を受けた学校の対応

- ・コロナ禍の中、授業や学校行事の参観、部活動の大会等の保護者見学の機会が少なくなる中であるが、感染防止対策の徹底を図りながら、できる限り、保護者が参観できる機会を構築していく。
- ・本校の課題である基礎学力向上のため、来年度から導入するスタディサプリを活用した授業や工夫した1Pノートの実践、生徒の習熟度を踏まえた「よい授業」の工夫改善、基礎学力コンテスト等の効果的な実施に取り組んでいく。
- ・不登校生徒については、本人及び保護者との連携を密にとり、関係諸機関と連携を図りながら組織的な取組を継続していくとともに、生徒の実態に寄り添った丁寧で温かい指導を実践していく。
- ・自転車通学者が全校生徒の9割を超えることから、これまで以上に交通安全指導や登下校指導を徹底し、主体的にルールやマナーを守る態度を育成していくための啓発活動を実施していく。
- ・休日の部活動の段階的な地域移行について総合型地域スポーツクラブとの連携を図りながら令和5年度からの実施に向け、学校協働ビジョンとして検討していく。

校長氏名 福田博志